

くろ だ いさむ
黒田 勇

(千代田化工建設(株)・Chiyoda International Corporation 出向
Operation Director –Freeport LNG)



黒田氏は、1971年に千代田化工建設(株)（以下、千代田と略）入社以降、約半世紀に亘り一貫して建設畑を歩んで来ており、勤続年数 49 年間のうち 21 年間（うちマネジメントとして 14 年間）を海外現場（海外 8 ヶ国、15 現場）で過ごしている。

氏は非常に統率力と企画調整力の双方に優れ、その貢献は、千代田化工建設が JV リーダーとして遂行した以下の 2 案件において顕著である。

シニアサイトマネジャーとして従事した Qatargas II プロジェクト(QGX)においては、仏 TECHNIP 社との JV で EPC を遂行したが、1 系列年産 780 万トンの LNG 製造設備建設という未曾有の難事業へのチャレンジであった。当初、進捗の遅れにより現場マネジメントチームの刷新を余儀無くされ、その建て直しに氏が抜擢された。当時カタルは未曾有の建設ラッシュにより多国籍の作業者が大量に雇用されていたが、氏のリーダーシップの下で、国籍・民族の壁を越えて団結し、完工することが出来た。プロジェクト初期は QGX 現場にて事故が散見されたが、氏が主導して、当時は先駆的であった JSTI (Job Safety Task Instruction) 手法を用い、Tool Box Meeting を改善させた。氏は、休業災害の大幅な削減（2,900 万時間無災害記録）を達成し、顧客 Exxon Mobil Development Company(EMDC)から Safe Contractor Award の最優秀コントラクターに選ばれた。

更に、氏を含む本プロジェクトのマネジメントメンバー 10 名は、カタルの資源開発への貢献が評価され、「ものづくり」に携わる特に優秀な"人材"として、日本政府主催の第 3 回「ものづくり日本大賞」（海外展開部門）で経済産業大臣賞を受賞し、経済産業省より「ものづくり名人」を称える記念メダルと盾が授与された。

サイトディレクターとして従事したパプアニューギニア独立国 LNG プロジェクトは、ExxonMobil PNG Limited を主要株主とする顧客向けに日揮株式会社と千代田で構成する JV（千代田リーダー）が EPC 遂行したもので、パプアニューギニアに於ける初の LNG 製造設備（年産 330 万トン 2 系列）の建設であった。

本プロジェクトは、千代田が遂行した過去の LNG 案件の中で最も成功裏に完成したと言っても過言では無く、工事安全と納期前倒しを同時に達成することが出来た。

建設当初から現地の治安に懸念があり、建設地周辺の 4 つの村では時々死傷者が出る争いが発生していたが、氏発案で、当該の村を統合した法人を組織化させ、職種別賃金規定を策定し、公平かつ透明性ある村人雇用を実現させた。その他、氏が主導した現地企業の積極採用及び近隣住民の積極雇用により、現地企業の発展及び住民の収入増が実現された。また、現場周辺の小学校 4 校への文具品の提供、現場付近で毒蛇に噛まれた村民への血清を供与、行方不明となった村の子供を探し当てたほか、近隣住民女性の内職収入支援のため、同女性らが製作した消耗品（ベッドカバー等）や工芸品、育てたフルーツの現場キャンプで販売するなど、徹底して本プロジェクトと地域コミュニティとの協調を実践した。村の代表から何度も謝意を受ける等、氏のリーダーシップの下に、近隣部族との協調・住民との融和が進み、無事に完工に到った。

上記の優れた功績は、エンジニアリング功労者個人賞での表彰に値する。

